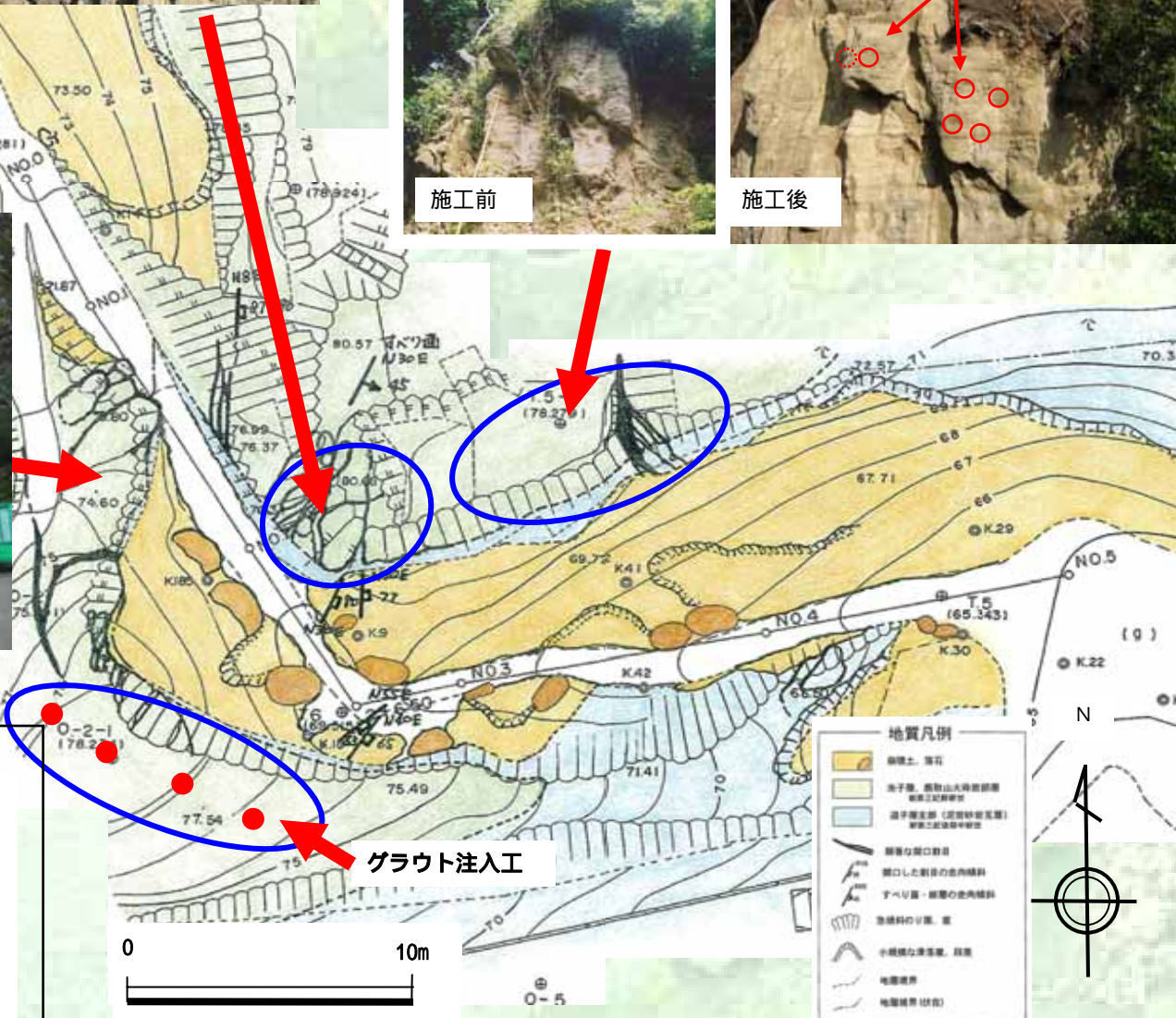
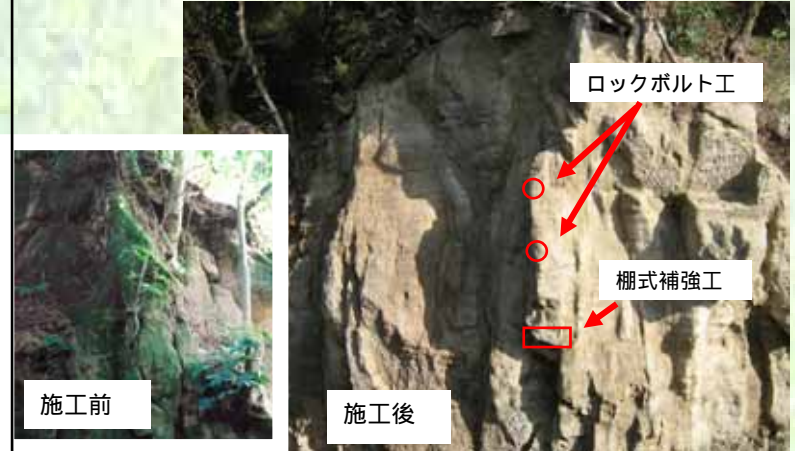
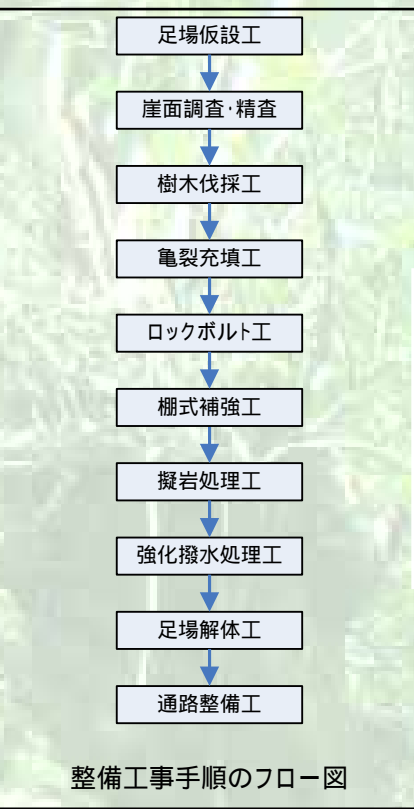
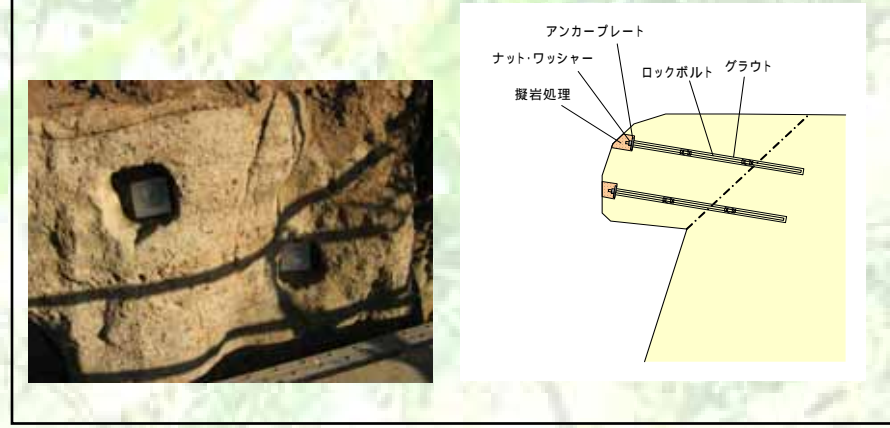


< 名越切通保存工事 > のあらまし

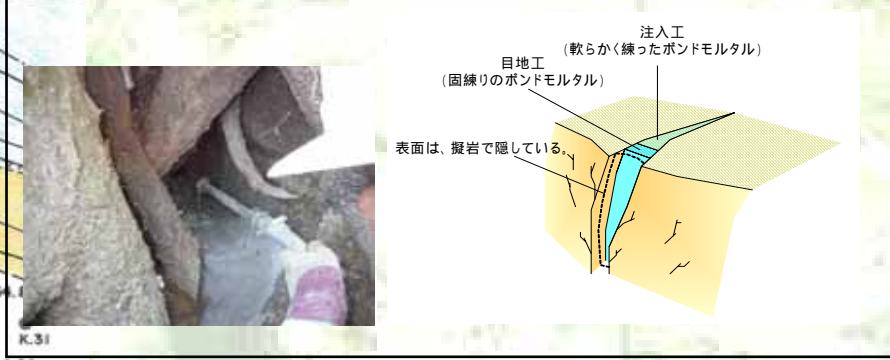
～ 地域に根ざし、開かれた史跡整備をめざして～
 逗子市教育委員会では、郷土の大切な歴史的財産、史跡<名越切通>の保存管理・公開・活用に向け、積極的に取り組んでまいります。



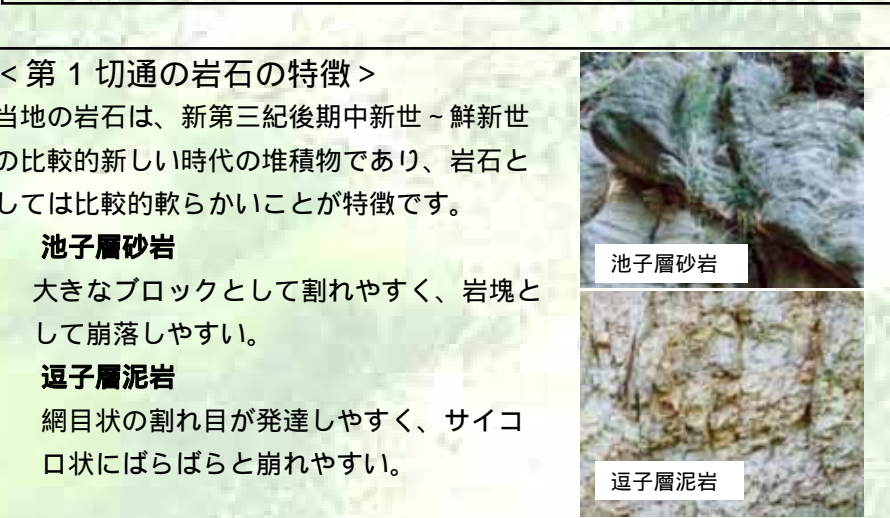
土木的な処置 < 岩塊を縫い付けて安定させる工法 >
ロックボルト工
 オーバーハングとなった岩塊は、ロックボルトで地山に縫い付け安定を図りました。



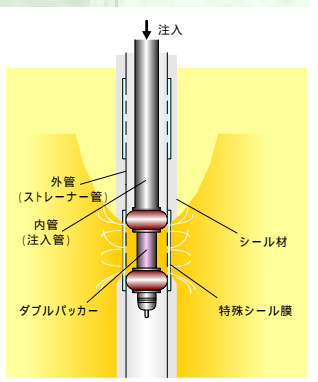
土木的な処置 < 岩塊を接着し安定させる工法 >
亀裂充填工
 岩の表面に無数に存在する割れ目には、目地で塞いだ上で接着剤を注入し、安定を図りました（目地の表面は擬岩で覆っているため見えません）。



科学的な処置 < 薬剤で岩肌を守る工法 >
強化・撥水処理工
 岩石の表面に珪酸エステル系基質強化剤を塗布し、岩石中に含まれる水分をガラス（ゲルSiO₂結晶）に置き換えました。その後、シラン系撥水剤を塗布し水分の浸入を抑制しました。



土木的な処置 < 山そのものを安定させる工法 >
グラウト注入工
 ボーリングによって岩盤内を削孔し、セメント系固化材を地山の内部に圧入しました。地山の内部には、無数の亀裂が発達していたため、ドラム缶4本分のセメントが注入されています。



通路整備工
 切通路を安全に歩きやすく整備しました。

名越切通は、鎌倉七切通の中でも、中世のたたずまいを最も感じることができる古道です。垂直に切り落とされた壁面は、池子層砂岩と逗子層泥岩という2種類の異なる性質の岩盤から形成されています。
 鎌倉時代に造成されて以来、現代まで数百年の年月の間、名越切通は掘り下げられ広げられながら、鎌倉と三浦半島を往還する主要幹線道路として今日まで利用され続けてきましたが、往年の面影を残す壁面は、深く樹根が入り込み浮石化したり、乾湿風化による崩壊を起こしたりと、安全な通行に支障をきたしていました。
 逗子市教育委員会では、過去から負託された郷土の財産である文化財を未来に引き継ぐため、最先端の保存科学と土木工事の技術を投入して、名越切通の保存工事を行ってまいりました。